

特集

母になつた日



イラスト/石坂 香

「母になつた日」は、母の苦難の日
そして、この上ない感動の日でもある

母親たちは、まるで詩人のように
その日のことを、心の言葉として綴る
うれしい涙、感動の涙、悲しい涙…

母の涙は、いつしか海へ流れ
月あかりでキラキラ輝く

「母になつた日」は
誰もが、宝石箱にしまっている宝物

くしゅくしゅの

つぶれた新生児の顔でも
かわいくてたまらない。

ど近眼な私は
ペビーに

べったり顔を近づけて
見つめ続けていました。

母になつた日。
純粹に生きている幸せに
満ち足りた日でした。

(長谷栄子)

新緑の美しい朝に
母になりました。

赤ちゃんを胸に抱いた
瞬間の感動は

何にも代え難い体験です。
それまでの人生の



つらいことなど、
どこかへいくようにさえ
思いました。

これから共に
生きていくという、
喜びと使命感に

あふれていたと思います。

(笹本翠)

あの日から
5年が経ちました。
確かに「母になつた日」は

娘が生まれた日だけれど、
毎日少しずつ

子どもたちに
「お母さん」に

させてもらっている
気がします。

(山口みさ子)



昨日の私よりも、
今日の私のほうが
より「お母さん」レベルが
上がっている感じ。
だからこれからは
「母になる日」が
続いていくでしょう。

完璧はないと思うので、
終わらなき修行です。

(杉本真美)

ああ。赤ちゃんって
本当に柔らかい。
完璧だ。
どうしてこんなに
いとわしくて

かわいらしくて
たまらないんだろうか。
私が生まれたときも
母はこう感じたのだろうか

かわいくて
たまらなかつたのだろうか。
お母さん、ありがとう。

わたしを産んで、
育ててくれてありがとう。
母が私にしてくれたように
いつもニコニコ笑顔で
太陽のように
この子を照らそう。

(山口みさ子)

初めて対面した赤ちゃんは
18ミリしかなかったけれど
心臓が拍動しているのが
ちゃんと見えたし、

小さい手を握り
足を踏ん張り
生きようとしていた。

(川口由起)

生まれたばかりの頃は、
泣き声が小さいとか
ミルクを飲まないとか
心配していたけれど、
今では大きな泣き声に、
近所迷惑ではないか
ミルクを飲んでばかりで
卒乳は大丈夫かな、と
全く反対の心配をしている。
これからも
いろいろな心配や
悩み事が出てくるだろう。
でも、あの日の
あの感触を思い出し、
娘との出会いに
感謝しよう。

(瀬間直美)

元気な泣き声とともに
赤ちゃん誕生！
涙がすくく出て、
なんていうか、
体全身ふるえました。
今まで
味わったことのない気持ち。
本当に本当に、無事に
生まれてくれてよかった。
ただそれだけで
いっぱいいっぱいでした。
命の大切さ。

(石田尚美)

あなたが教えてくれたこと

あなたに初めて会った時、よくがんばったね、ありがとう、というのが精一杯だった私。あなたとゆっくり対面したのはそれから数時間後。小さくて壊れそうなあなたに触れて感じるあなたの体温。何年も待ち望んだわが子の存在。これから親子として生きる未来に思いを馳せる前に、今そこにあるあなたの存在に感謝した。あなたに繋がるすべてのものに感謝した。この世界に出て、あなたは何を感じているのだろう。不安だろうか、うれしいだろうか。あなたの目を見ながらあなたの思いを探ろうとしたが、遠くを見るあなたの目は深淵で、お母さんにはあなたの思いがわからない。

ずっと語り続けてきたあなただから、きっとあなたの気持ちをお母さんならわかってあげられる。なんて、驕った気持ちが吹き飛んだ。あなたは一人の人。私の身体の一部ではない。あなたを泣き止ましてあげることもできず、しまいにお母さんごめんね、と謝る私。あなたは、あなたが小さくても立派な個人であることを悟らせてくれたね。

初めてのオムツ替え。震える手で上手にできなかったね。そして授乳。あなたの力強さに驚きながら、私の指を握るその小さい手が愛しかった。

ああ、この子が生きていく世の中が平和であってほしい。平和にしなればいけないのだと、祈るような気持ちと使命感が交互にやってきた。未来の平和を、こんなに強く望んだことがあったらうか。

(中原美和子)

失いたくない。守りたい。
初めてそう思いました。

(藤田真希子)

生まれてきた瞬間を
私は一生忘れない。
赤ちゃんだ！
赤ちゃんが出てきた！
ペタンとなった私のお腹
びっくりしました。
当たり前なのに
びっくりして
びっくりして
目が離せませんでした。

産後の処置は
痛かつたはずだけれど、
そんなこと
構っていられないくらい
びっくりして
感動した瞬間でした。

(和田由紀子)

初めて耳にする
わが子の産声。
ひと仕事終えた私は、
何ともいえない感動を
覚えました。
世の中の女性は
偉大な女だ！
命を宿し、産み育てる。

(石田尚美)

私という人間だけでは
きつとこんなに
愛してはもらえない。

(小島咲樹)

子どもたちにとつて
「かあちゃん」だから
ここまでなつて
くれるんだろうなあと
思いつつ、
置かれた立場に感謝できる
ようになった最近が、
お母さんつぼくなった日で、
お母さんになった日は
もう来たかもしれないし、
まだ来てないかも
しれません。

(安田歩)

この壮絶な
痛みとの戦いを
何とか
終えることができたという
思いのほうが強くて
わが子と感動的な
出会いができるほどの
心の余裕も何もなかった。

(鈴木充子)

タオルで巻かれたあなたを
抱かせてもらい、
あなたと2人でがんばって
出産を成し遂げた
達成感を味わいながら、
まだ目も開いていない
小さなあなたが、
私の勝手な想像よりも
「ずしり」と重いことに
驚きました。

(小島咲樹)

MOTHER